

- スズキ、「ソリオ」「スイフト」「イグニス」「クロスビー」・三菱OEM「デリカD:2」について、アイドルングストップ後に再始動できない恐れがあるとしてリコール
2015年7月29日～2021年12月10日に生産した42万9431台
エンジンコントローラの制御プログラムが不適切なため、アイドルングストップ後のISG(モーター機能付発電機)による再始動ができなかった場合、スタータモーターでのエンジン再始動に切替える保護機能が働かず、自動でエンジンを再始動できない恐れがある。
- いすゞ自動車、「ギガ」について、電装系に高圧洗浄の水が浸入し、火災に至る恐れがあるとしてリコール
2017年6月15日～2021年9月17日に生産した1367台
スタータリレーおよびキャブチルトリレーへ接続するハーネスのコネクタ取付け向きが不適切なため、キャブチルト状態で高圧洗浄を行った場合に、コネクタ部から水が浸入することがある。そのため、リレーの接点間でトラッキングが発生して発熱、焼損し、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- いすゞ自動車、「エルフ」・日産OEM「アトラス」・マツダOEM「タイタン」について、前輪緩衝装置に不具合があるとしてリコール
2018年11月7日～2021年5月15日に生産した1万6522台
フロントリーフスプリングの製造工程が不適切なため、耐久性が不足しているものがある。そのため、そのまま使用を続けると、リーフスプリングが折損し、最悪の場合、走行安定性が損なわれる恐れがある。
- 三菱自動車、「ekスペース」・日産OEM「ルークス」のエアバッグに不具合があるとしてリコール
2020年12月11日～2021年12月1日に生産した8万6282台
三菱自動車と日産自動車は昨年12月24日、両モデルについて、前面衝突試験において、運転席エアバッグの特定の展開挙動で、法規要件の一部を満足できないおそれがあることが判明したと発表。原因の特定と対策を確定するまで、一時的に生産・出荷および登録を停止していた。両社は不具合の原因を特定し、改善対策を確定。これを受け、生産と出荷を2月11日より再開させるとともに、既に販売している2020年12月以降の生産車両についてリコールを届け出た。改善対策として、運転席エアバッグ内部に吊紐を追加した対策品と交換し、常に設計位置でエアバッグが展開作動するよう制御する。また、対策効果をさらに安定化させるため、運転席側にニューエアバッグを標準装着する。
- 三菱自動車、「デリカD:5」について排気ガスが漏れの恐れがあるとしてリコール
不具合箇所はエキゾーストマニホールドおよび過給機。対象となるのはエキゾーストマニホールドが2012年12月18日～2019年1月7日に生産した5万8297台、過給機は2012年12月18日～2014年4月18日に生産した1万1821台
エキゾーストマニホールドについては、EGR(排気ガス再循環装置)用のパイプの構造が不適切なため、排気ガス処理システム作動時の熱負荷による、エキゾーストマニホールドの熱膨張・収縮の繰り返しにより、溶接部に亀裂が入ることがある。そのため、亀裂部より排気ガスが漏れるおそれがある。過給機については、ハウジング接合部のシールリングの設定に不備があり、構成部品の精度ばらつきによっては使用過程においてシール不良に至るものがある。そのため、シール不良部位から排気ガスが漏れる恐れがある。
- メルセデス・ベンツ日本、メルセデスAMG「G63」等計36車種について、点火コイルに不具合があるとしてリコール
2017年12月19日～2020年9月9日に輸入した3015台
点火コイルの製造設備の保守が不適切なため、2次コイルの配線が長く、回路内で短絡が発生して高電圧が生成できなくなり、影響を受けたシリンダが失火することがある。そのため、エンジンの出力が低下するとともにエンジン警告灯(MIL)が点灯し、最悪の場合、排出ガスが基準値を超える恐れがある。
- ボルボ・カー・ジャパン、「XC60」等計4車種の事故自動緊急通報装置に不具合があるとしてリコール 2021年8月17日～11月29日に輸入した1666台
ルーフのアンテナカバー製造工程の管理が不適切なため、車両組付け時にルーフが歪むことがある。そのため、アンテナカバーの密着が不足し、隙間より水が車内へ侵入し、最悪の場合、メーターパネルへ緊急通報の警告が表示され、緊急通報が行えない恐れがある。